

平成24年8月8日(水)

# 平成25年3月期 第1四半期 決算説明資料

## 株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

Kaneka

• 業績概要	P.	3
• 主要指標	P.	4
• 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況	P.	5
• 連結貸借対照表	P.	12
• 連結キャッシュ・フロー計算書	P.	13
• 海外売上高	P.	14
• 為替変動の影響	P.	15
• 設備投資・減価償却費 / 研究開発費	P.	16
• 業績予想	P.	17
• トピックス	P.	18

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	増減額
売上高	1,190	1,177	△ 13
営業利益	36	39	2
経常利益	35	39	4
四半期純利益	22	18	△ 4
為替レート (円/US\$)	81.71円	80.18円	
為替レート (円/EUR)	117.38円	102.84円	
国産ナフサ (円/KL)	59,000円	59,000円	

◎ 売上高は前年同四半期に対して△13億円・△1.1%の減収となりました。

◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益は+2億円・6.5%、経常利益は+4億円・11.6%の、それぞれ増益に、四半期純利益は、特別損失を計上したことにより、△4億円・△17.1%の減益となりました。

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期
・売上高営業利益率	3.1%	3.3%
・売上高経常利益率	2.9%	3.3%
・売上高四半期純利益率	1.9%	1.6%
・1株当たり四半期純利益	6.53円	5.44円
・ROE（年換算）	3.5%	3.0%
・ROA（年換算）	3.1%	3.4%

	24年3月期末	25年3月期 第1四半期末
・自己資本比率	53.0%	52.9%
・1株当たり純資産	734.61円	722.07円
・有利子負債	747億円	746億円
・D/Eレシオ	0.30	0.31

# 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信

サマリー情報、【添付資料】P. 11・12参照)

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高			営業利益		
	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	増減額	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	増減額
化成品	22,727	24,430	1,702	1,020	1,294	274
機能性樹脂	20,032	18,160	△1,872	2,088	1,566	△522
発泡樹脂製品	13,873	14,098	225	670	616	△53
食品	33,070	32,261	△809	1,623	1,259	△363
ライフサイエンス	11,532	10,515	△1,016	1,685	1,927	242
エレクトロニクス	9,939	9,803	△135	△1,018	△658	360
合成繊維、その他	7,803	8,409	606	399	1,237	838
調整額	—	—	—	△2,831	△3,371	△539
計	118,977	117,679	△1,298	3,637	3,872	235

※当第1四半期連結会計期間より、研究開発体制の一部を見直し、従来「エレクトロニクス」事業に区分しておりました研究開発費の一部を基礎的研究開発費として全社費用に含めております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しております。

- ◎ 売上高は、化成品、発泡樹脂製品、合成繊維、その他の3セグメントが増収となりましたが、機能性樹脂、食品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの4セグメントは減収となりました。
- ◎ 営業利益は、化成品、ライフサイエンス、合成繊維、その他の3セグメントが増益となり、エレクトロニクスは損失が縮小しましたが、機能性樹脂、発泡樹脂製品、食品の3セグメントは減益となりました。

# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 【添付資料】 P. 2参照)

◎当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

## ・化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内の需要低迷の影響を受けました。塩ビ系特殊樹脂は、国内市場・海外市場ともに販売数量が増加しました。か性ソーダは、国内市況が堅調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は24,430百万円と前年同四半期と比べ1,702百万円(7.5%増)の増収となり、営業利益は1,294百万円と前年同四半期と比べ274百万円(26.9%増)の増益となりました。

## ・機能性樹脂事業

モディファイヤーは、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力しましたが、国内及び海外市場の需要低迷の影響を強く受け、販売数量は低調に推移しました。変成シリコーンポリマーは、国内向けの販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は18,160百万円と前年同四半期と比べ1,872百万円(9.3%減)の減収となり、営業利益は1,566百万円と前年同四半期と比べ522百万円(25.0%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 【添付資料】 P. 2・3参照)

## ・発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品、押出發泡ポリスチレンボードは、販売数量が前年同四半期を下回りました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、東日本大震災やタイの洪水災害によって停滞したサプライチェーンの回復やエコカー補助金制度の復活などを背景に販売数量が増加しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は14,098百万円と前年同四半期と比べ225百万円(1.6%増)の増収となりましたが、営業利益は616百万円と前年同四半期と比べ53百万円(8.0%減)の減益となりました。

## ・食品事業

食品は、国内の消費市場が低調に推移し、低価格品志向が一層強まるなかで、新製品の拡販やコストダウンに注力したものの、原料価格高騰の影響を受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は32,261百万円と前年同四半期と比べ809百万円(2.4%減)の減収となり、営業利益は1,259百万円と前年同四半期と比べ363百万円(22.4%減)の減益となりました。

# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 【添付資料】 P. 3参照)

## ・ライフサイエンス事業

医療機器は、インターベンション事業が公定価格の引下げにより伸び悩みましたが、血液浄化システムは安定して拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が低調に推移しました。機能性食品素材は、高機能品の販売数量拡大とともに、徹底したコストダウンに注力しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は10,515百万円と前年同四半期と比べ1,016百万円(8.8%減)の減収となりましたが、営業利益は1,927百万円と前年同四半期と比べ242百万円(14.4%増)の増益となりました。

## ・エレクトロニクス事業

超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料は、エレクトロニクス製品市場の需要の拡大と新規案件の採用などにより販売数量が前年同四半期を上回りました。太陽電池は、国内市場向けの拡販と徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売数量が低調に推移しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は9,803百万円と前年同四半期と比べ135百万円(1.4%減)の減収となりましたが、営業損失は658百万円と前年同四半期に比べ損失が縮小しました。



# 事業セグメント別 売上高・営業利益の状況

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 【添付資料】P. 3参照)

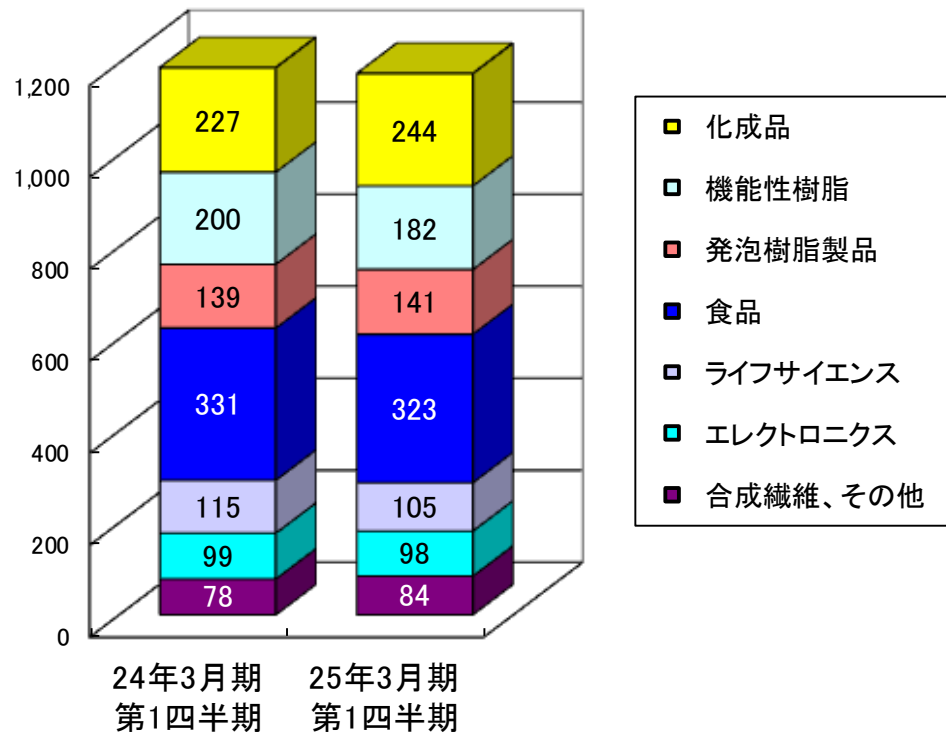
- ・ **合成繊維、その他事業**

合成繊維は、高付加価値品の拡販、販売価格の修正やコストダウンなどの収益改善策に注力しました。

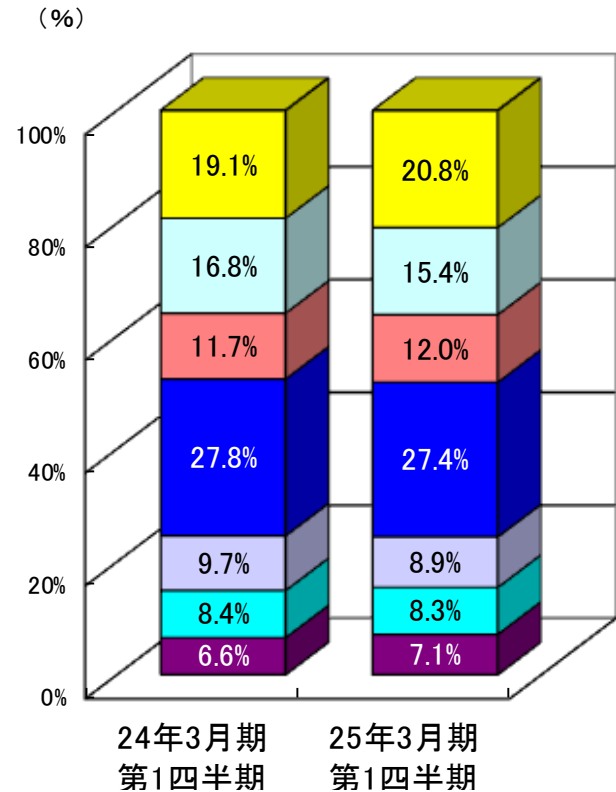
以上の結果、当セグメントの売上高は8,409百万円と前年同四半期と比べ606百万円(7.8%増)の増収となり、営業利益は1,237百万円と前年同四半期と比べ838百万円(209.8%増)の増益となりました。

# 事業セグメント別売上高

セグメント別売上高  
(億円)

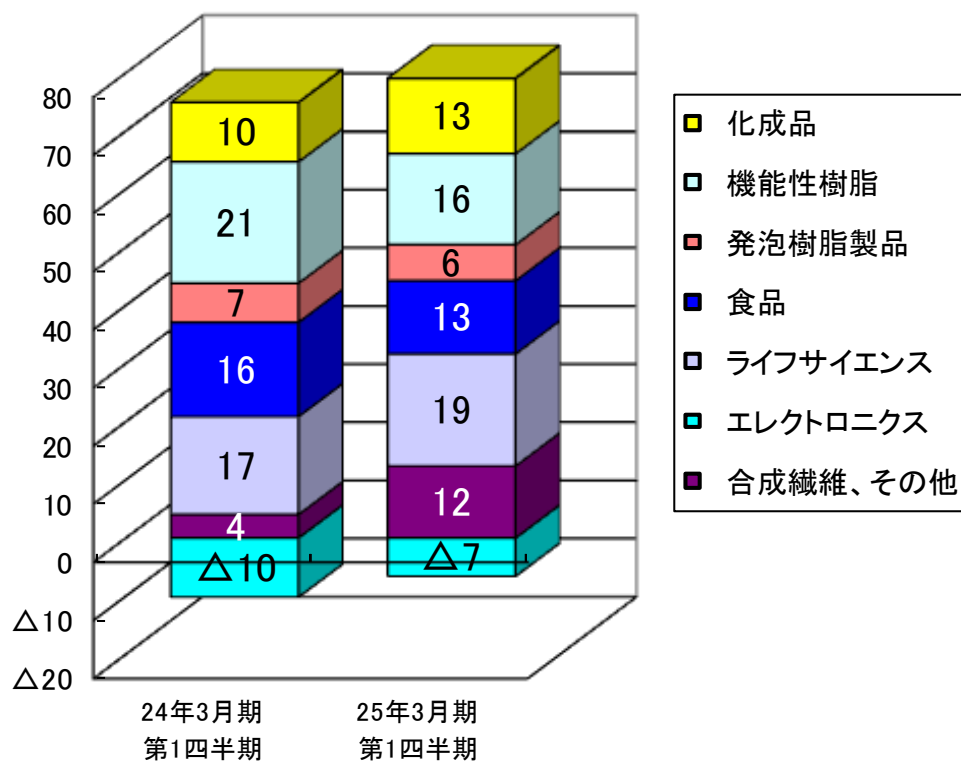


セグメント別売上高: 構成比

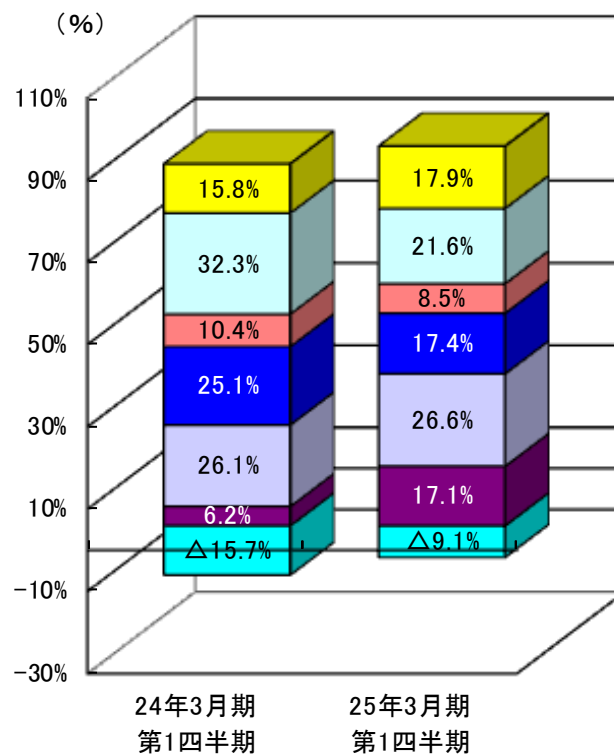


# 事業セグメント別 営業利益

(億円) セグメント別営業利益



セグメント別営業利益: 構成比



(平成25年3月期 第1四半期 決算短信【添付資料】P. 5・6参照)

(単位：億円)

		24年3月期末	25年3月期 第1四半期末	増減額
資産	流動資産	2,360	2,326	△ 34
	固定資産 等	2,311	2,273	△ 37
	合計	4,671	4,600	△ 71
負債	有利子負債	747	746	△ 1
	その他	1,349	1,322	△ 27
	合計	2,096	2,069	△ 28
純資産	自己資本	2,475	2,433	△ 42
	少数株主持分 他	99	98	△ 1
	合計	2,575	2,531	△ 44
負債、純資産 合計		4,671	4,600	△ 71
D/Eレシオ		0.30	0.31	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、前連結会計年度末に比べて71億円減の4,600億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、65百万円減少し746億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により44億円減の2,531億円となりました。

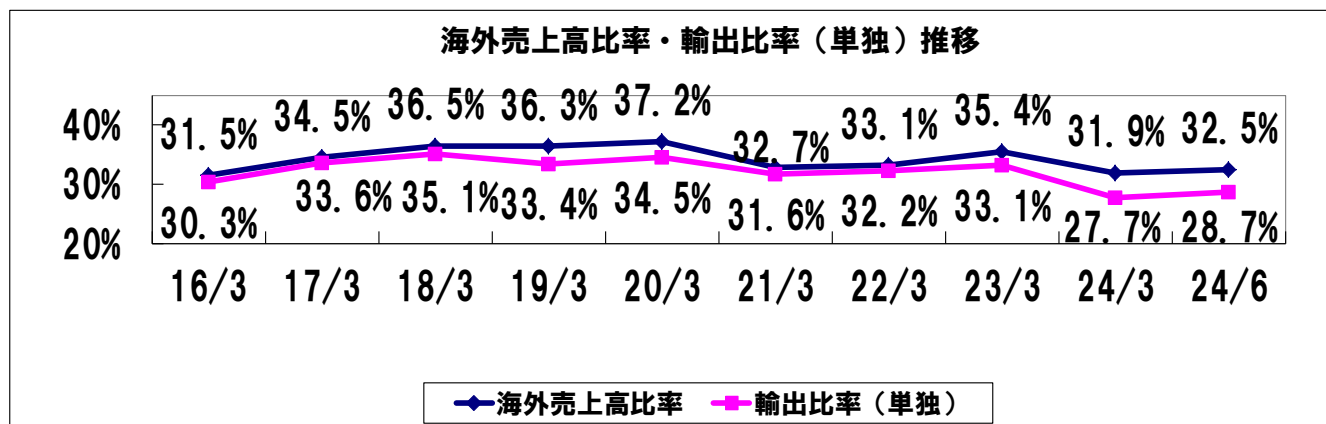
# 連結キャッシュ・フロー計算書

(平成25年3月期 第1四半期 決算短信【添付資料】P. 9・10参照)

(単位：億円)

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	52	82	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 55	△ 78	△ 24
フリー・キャッシュ・フロー	△ 2	4	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 18	△ 26	△ 8
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	△ 15	△ 24	△ 8
現金及び現金同等物の四半期末残高	354	250	△ 105

- ◎ 当第1四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により82億円となりました。
- ◎ 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により78億円、財務活動による資金の支出は、配当金の支払等により26億円となりました
- ◎ この結果、現金及び現金同等物の当第1四半期連結会計期間末残高は、250億円となりました。



（単位：億円）

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期	増減額	増減率
アジア	162	173	10	+6.5%
北米	84	73	△ 11	△13.5%
欧州	115	99	△ 15	△13.4%
その他	43	38	△ 5	△11.2%
海外売上高計 （海外売上高比率）	404 (33.9%)	383 (32.5%)	△ 21	△5.2%

◎ 海外売上高は円高の影響を大きく受けて383億円と前年同四半期に比べて減少しました。なお、海外売上高比率は32.5%となり前年同四半期の33.9%を下回りました。

## 【期中平均レート】

(単位:円)

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期
米ドル	81.71	80.18
ユーロ	117.38	102.84

## 【通貨別影響額】

(単位:億円)

	売上高	営業利益
米ドル	△4	△1
ユーロ	△14	△3
その他	△2	△0
合計	△20	△3

- ◎ 為替は対ドル、対ユーロともに円高となり、前連結会計年度に対して売上高で△20億円、営業利益で△3億円の影響を受けました。

# 設備投資・減価償却費 / 研究開発費

(単位：億円)

	24年3月期 第1四半期	25年3月期 第1四半期
設備投資	66	60
減価償却費	69	65
研究開発費	49	52



(平成25年3月期 第1四半期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 4参照)

- ◎ 当第1四半期連結累計期間の世界経済は、長く低迷していた米国経済に緩やかな回復の動きが見られるものの、欧州経済低迷の長期化、中国・インドなどアジア諸国の成長ペース鈍化など、全体として減速感が広がっております。わが国経済は、震災復興需要などを背景として緩やかな回復基調にあります。足元では円高、原燃料価格の上昇、電力供給制限など不安定要素を多く抱え、先行きの不透明感が強い情勢となっております。
- ◎ このような厳しい経済環境の中、当社グループは、重点戦略分野への事業展開を進め、新規事業の創出、グローバル展開やアライアンスの強化等により、事業構造の変革を推進してまいります。また、既存事業での販売数量増大のための施策や、生産から販売まで含めたトータルコスト低減に向けた技術開発や業務革新をグループ一体となって進め、収益力強化に徹底して取り組んでまいります。
- ◎ なお、第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

## 前回発表予想

(単位：億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期(累計)	2,400	80	75	40
通期	5,000	200	185	100

## 【25年3月期：前提条件】

為替：80円/US\$、105円/EUR、国産ナフサ：60,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

- 口溶けの良さにこだわり、バター風味を再現したシートマーガリンを開発  
— 当社食品グループ主催の展示会フードフェスタに出展 — 7月25日
- 発泡ポリオレフィンビーズの中国華南新工場建設を開始 — 7月20日
- 中国華南地区に発泡ポリオレフィンの新工場建設を決定  
— コーポレート拠点として鐘化貿易(上海)有限公司広州分公司も営業開始 — 6月20日
- 乳酸菌 *Pediococcus acidilactici* R037 株の血中中性脂肪低減効果について  
— 第16回日本腸内細菌学会にて発表 — 6月19日
- 当社社長 菅原公一 ベルギー王国よりレオポルド勲章コマンドール章を受章 — 6月15日
- 次世代ヘテロ接合太陽電池の開発 — 6月13日
- ベース樹脂の高熱伝導化による新しい高熱伝導性樹脂材料を開発  
— 第61回高分子学会年次大会における研究発表のご案内 — 5月21日
- 高耐熱性熱融着ポリイミドの次期宇宙大型薄膜構造体材料への採用に向けて  
— 第61回高分子学会年次大会における研究発表のご案内 — 5月21日
- 小豆酵素分解物(小豆ペプチド含有)の本格販売を開始 — 5月17日
- 『自然エネルギー活用住宅普及促進協議会』発会式を開催 — 5月11日

**kaneka**